

「いづろ健康・介護まつり」を開催しました

2024年10月14日土曜日に「いづろ健康・介護まつり」を開催いたしました。

昨年までは当院単独で開催しておりましたが、今年からは名山区コミュニティ協議会との共催、鹿児島市および垂水市の後援をいただき、「いづろ健康・介護まつり」と名称を変え、地域のイベントとして、地域の皆様が自らの健康について考える機会を提供し、健康づくりに取り組んでいくことができるよう啓発普及を図り、地域との交流を深めることを目的として再スタートいたしました。

当日は甲東中学校の音楽部の生徒さん達によるミニコンサートでオープニングを飾っていただきました。素敵な音色を奏でていただき、ご来場いただいた地域の皆様、入院患者様も大変満足されたようで、もっと聞きたかったなど、たくさんの好評の声をいただきました。

また、コロナ禍前まで行っていた市民公開講座も再開いたしました。今年は当院の開放型病院登録医である、瀬戸山クリニックの瀬戸山 仁 先生に「がん検診について」の題目でご講演いただきました。瀬戸山先生の講演は、柔らかい口調で、非常にわかりやすい内容でありながら、がん検診の大切さがしっかりと伝わる内容であり、来場者だけでなく、講演を視聴していた当院スタッフにとっても学びの場となりました。

ご自身の体の状態を知る健康チェックコーナーにおいては、看護師による「血圧・血糖測定」、診療放射線技師による「骨密度測定」、臨床検査技師による「塩分摂取量測定」、リハビリスタッフによる「ロコモチェック」、視能訓練士による「視力測定」などを実施いたしました。また、健康相談コーナーにおいては、医師・保健師による「健康相談」、薬剤師による「お薬相談」、管理栄養士による「栄養相談」などの他、医療スタッフによる「医療・福祉相談」「ACP相談」や「オレンジハルーンプロジェクト」、「BLS講習会」も実施いたしました。その他にも、名山区コミュニティ協議会や社会福祉法人慈愛会の架け橋、協賛業者や近隣店舗の方々にご協力をいただき、お楽しみコーナー、手作り品の出店などを行いました。どのブースも多くの来場者で大変賑わっており、地域の皆様との交流、コミュニケーションを深めることができました。

ご来場いただいた方からも、「中学生の演奏がとても良かった」「皆さんとても親切で貴重なお話がたくさん聞けた」「スタッフの皆様が細やかに接しておられ、とても温かい気持ちになった」「親しみやすさがあった、また来年から来たい」など嬉しいご意見、ご感想をいただきました。

来年度以降も「いづろ健康・介護まつり」を地域の皆様の健康づくり・交流の場として有意義なものにし、地域ぐるみの健康なまちづくりに貢献していきたいと思っておりますので、ご協力賜りますようお願い申し上げます。



リンクインフォメーション 第117号 令和6年12月



慈愛会 健康管理センター移転のご案内

慈愛会 健康管理センター長 常盤 二起子 (ときわ ふきこ)

いつも大変お世話になっております。この度、慈愛会健康管理センターは2024年9月24日にいづろ今村病院の別館に移転リニューアルオープンしました。

初めて受診される方にもわかりやすいレイアウトになるよう、1階に診察室・医療面接室・計測コーナー、2階に各検査室・婦人科検診室を配置しました。広くなった受付コーナーや更衣室、待合室を利用しながらゆっくりと健診を受けていただけるようになっております。常に新たな視点を持ち、より安心・安全に質の高いサービスをスムーズに提供できるような環境作りをこれからも進めてまいります。

今回のオープンに合わせてAI技術を活用した胸部X線病変検出ソフト CXR-AIDを導入しました。また次年度からはオプション検査に低線量CT検査や喀痰検査を取り入れ、進行がんで見発見されることの多い肺がん検診の精度を更に向上させたいと考えております。

今年お死亡率第1位であり年々増え続けている「がん」の早期発見のために、また国民医療費の約3割、死亡数割合では約6割を占めるといわれている「生活習慣病」の予防や改善のために、先生方のかかりつけの患者様にも是非がん検診や健康診断を受けていただきますようお願いください。

今後も地域住民の方々の予防医療や病気の早期発見に貢献するという、慈愛会健康管理センターとしての役割をしっかりと果たしていけますよう、スタッフ一同心を込めて取り組みますので、引き続きよろしくお願い申し上げます。



■ 発行者 ■ 公益財団法人 慈愛会 いづろ今村病院 地域連携室

いづろ今村病院 TEL099-226-2600(代表) いづろ今村病院・地域連携室 TEL099-226-2180 FAX099-226-2181

いづろ今村病院夜間かかりつけ救急 TEL099-226-2600 今村総合病院 救急・総合内科 TEL099-251-2221(代表)

■ 発行者 ■ 公益財団法人 慈愛会 いづろ今村病院 地域連携室

いづろ今村病院 TEL099-226-2600(代表) いづろ今村病院・地域連携室 TEL099-226-2180 FAX099-226-2181

いづろ今村病院夜間かかりつけ救急 TEL099-226-2600 今村総合病院 救急・総合内科 TEL099-251-2221(代表)

慈愛会糖尿病センター/糖尿病内科

鎌田 哲郎 (かまだ てつろう)

名誉院長 兼 慈愛会糖尿病センター長
医学博士/日本内科学会認定医/日本糖尿病学会認定医/日本糖尿病学会研修指導医/
鹿児島大学医学部臨床教授/鹿児島大学医学部非常勤講師



いつも連携治療では、大変お世話になっております。

9月26日に第10回いづろ今村病院・糖尿病地域連携セミナーをハイブリッド形式で開催しました。総数291名（現地参加22名、オンライン参加269名）のご参加をいただき、関係者一同大変喜んでおります。昨年度の連携診療の患者数は総数331名、総施設数は166施設でした。これもひとえに先生方のお力添えの賜物と、深く感謝申し上げます。6～12ヶ月毎に来院される患者さんの、連携診療に対する満足度はとても高いと感じています。また、かかりつけ医の先生方の糖尿病診療に関するスキルも年々レベルアップしているのを感じます。今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。

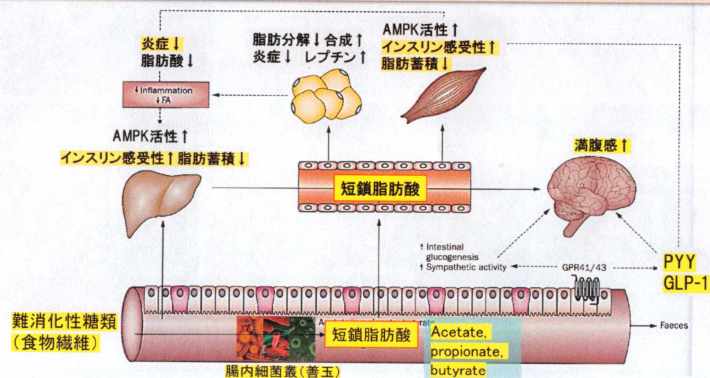
今回は、私の糖尿病に関する話題と当院緩和ケア診療部の松下格司主任部長が話させていただきます。

私の話は、①糖尿病と腸内細菌叢と②DKDでのSGLT2iの使い方に関してでした。最近乳酸菌製剤のコマーシャルを聞かない日はないですが、正確な情報は不足していると思います。善玉菌とはなにか？悪玉菌とは？糖尿病の患者さんでの腸内細菌叢はどうなっているのか？乳酸菌製剤を飲んでいると、腸内細菌叢は良い方向に変わるのか？食物繊維と善玉菌の関係等の疑問に答えられるよう新しい話題も加えてお話しさせていただきました。

松下主任部長のレクチャは緩和診療に対する重要な点を教えてくれました。痛みからの解放という点だけではなく、死を目前にして絶望した患者さんが、再び生きる希望を取り戻し、残りの価値ある人生を生ききるためにサポートしていくことは、とても重要であり、プロフェッショナルのなせる技だと感じました。

今後とも、いづろ今村病院をどうぞ宜しくお願い申し上げます。

善玉腸内細菌で作られる短鎖脂肪酸は、血中へ移動し、代謝・免疫系で様々な重要な役割を果たす

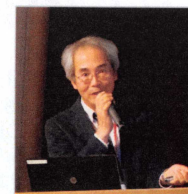


Nature reviews Endocrinology, 2015

緩和ケア内科

松下 格司 (まつした かくし)

緩和ケア内科主任部長
日本緩和医療学会専門医/日本内科学会総合内科専門医/
日本血液学会専門医/日本リウマチ学会専門医



いつも緩和ケア内科へ患者さんをご紹介いただきありがとうございます。

いづろ今村病院緩和ケア内科は平成26年に始まり、平成29年7月から私が引き継ぎまして、外来、病棟を運用しています。令和元年から泌尿器科出身の原田先生と二人体制となりました。緩和ケア内科の診療は主にがん患者さんご家族を対象にします。緩和ケアでは症状、つらさを軽減し、心と体の負担を減らし、生活の質をあげることを目標に医療を提供しています。今回糖尿病地域連携セミナーにおいて地域連携における緩和ケア内科の役割というテーマでお話しをさせていただきました。

当院は地域癌診療連携拠点病院、県指定癌診療連携病とは専門領域が少し異なり、診断時からの癌診療を多く提供している病院ではないのですが、当科では緩和ケア病棟を22床で運用しています。そのため当院における連携の特徴として、紹介いただいている患者さんの中に当科だけでなく当院を始めて受診される方が多く含まれています。状態も厳しくなっていく中、不安を抱いて、初めての病院を受診、入院される方を診療する上で十分な情報をいただいているおかげで、スムーズに診療を始める事が可能になっています。

診療においては患者さん、ご家族の身体的、精神的、社会的苦痛、そしてスピリチュアルペインに総合的に取り組んで行く必要があります。全人的苦痛に対してのケアを行っていくこととなります。痛み、呼吸困難などの身体症状、不安、不眠などの精神症状を可能な限り軽減し、家族、経済的な問題があれば解決できるよう取り組んで行きます。スピリチュアルペインについては日常の診療から意識して取り組むことは少し難しいかもしれませんが。緩和ケア病棟では看護師さん、臨床心理士さんを中心に可能な限りスピリチュアルケアを提供出来る様に努めています。具体的には患者さんのこれまでの人生に敬意を示し、これから先の過ごし方を一緒に考えていきます。医療関係者が患者さんと良好な関係を築き、患者さんが病気になることでの孤独感を可能な限り軽減し、ご家族を含む大切な方々と穏やかな時間を過ごしていただくお手伝いをします。また疾患、衰弱などで色んな事をご自身で出来なくなっていく中、可能な限り患者さんの意志、希望を尊重し、尊厳が保たれる様にします。

癌診療の開始時から緩和ケアチームが参加し、前述の全人的ケアを提供すると患者さんの症状、つらさが少なくなる事に加え、生存期間も延長したという論文(Temelら、New England Journal of Medicine, 2010)が発表されて以降、早期からの緩和ケア、特に医療者全員が緩和ケア、全人的ケアを提供することの大事さが強調されています。その観点から病棟で全人的ケアを多くのスタッフが提供した症例、私の血液内科としての白血病診療において経験した一部の症例も含めてお話しさせていただきました。この全人的ケアをとり入れて診療をする事は今後いろんな領域で必要になってくるものと考えられています。

少ない時間ではありましたが、医療用麻薬処方のコツについても触れさせていただきました。医療用麻薬は種類も増えて、少量で開始し、副作用も確認しながら、痛みに合わせて増減するといった使い方をします。鎮痛薬の中では使いこなすのにある程度の経験が必要となります。最近よく使用される、オキシシドン、ヒドロモルホン、フェンタニルについて自分の経験も踏まえてお話しさせていただきました。

今回は驚くほど多くの皆様に視聴していただいたと伺って感激しております。皆様との連携あつての当科の診療です。今後ともお世話になることばかりですが、どうぞ宜しくお願いいたします。